

平成 21 年度 第 3 回 石狩市社会教育委員の会議 議事録

(要点筆記)

日 時 平成 22 年 2 月 24 日 (火) 午後 1 時 30 分～3 時 35 分

会 場 石狩市公民館第一研修室

出席者 委員長：徳田昌生 副委員長：相馬 保

委 員：中川妙子、山根利子、袴田勝、柴田由美子、村中誠治、藤原市子、若林厚一郎

事務局 生涯学習部：部長 三国義達

社会教育課・公民館：課長 清水雅季、主査 板谷英郁、

主任 谷川裕之、主任 西山隆之、主任（兼社会教育主事）松永 実

文化財課：主査 工藤義衛

地域教育推進室：参事 東 信也、主査 吉田雅人

会議内容

1 樋口教育長あいさつ

新年度は新教育プランのスタートの年ということで、これまで委員の皆様にはプランの策定にあたり、各種事業、施策等の実現に向けた多くのご意見をいただきましたことに感謝を申し上げます。またこれまで2年間、この会議の中で特に社会教育・生涯学習の意義などについては、本当に熱心にご議論いただきました。私としても、プランの策定作業の中で「社会教育のこれから向かうべき方向性や時代感」などについてどのようにするべきかを考えましたが、最終的に新しいプランの中で端的に明示をするまでに至らなかったのではないかと率直に考えており、今後さらに精査、熟慮を重ねていかなければと思っております。

教育基本法が改正され、社会教育そのものが「個人の要望」と「社会の要請」という大きく2つの視点から進めることになっております。前者については公民館での講座事業などから吸い上げることができますが、特に後者（社会の要請）については、大所高所から今後さらに大きな議論をしていかなければならないと考えており、私は今、大きく2つのテーマがあると思っています。

一つ目は「新しい公共空間に対応する人材の育成」です。この点については、本市では「市民との協働」を柱に進んでおり、特に「いしかり市民カレッジ」がその代表的な取組として実現されていることについて大変嬉しく思っております。

もう一つは、やはり「家庭教育にもどらざるをえない」ということを今、率直に感じています。日々報道されている凶悪犯罪事件の半数近くが家庭内、親子間で起きているという状況を考えた時に、いわゆる「家庭での教育力の低下」という一般論の中で見過ごすのではなく、あらためて「家庭教育」をしっかりとおさえながら、本市の教育、社会教育の柱立ての大きなウェイトを占めていかなければならないと感じているところです。学習習慣や生活習慣、食育などについても相当な課題になっているという状況からも、新年度は「早寝・早起き・朝ごはん運動」のようなことを、まずはPTAや地域の方々と一体となって取り組んでいきたいと思っておりますし、併せて家庭内における「子どもの読書活動」についても、親子同士の会話・コミュニケーションを深めたり、学習習慣の定着という意味においても、「親子で読書をする運動」というような、子どもの読書活動を推進する取組についても具体化させていきたいと考えています。

また、これらのほかに、「市民図書館」「公民館」「砂丘の風資料館」の3つの社会教育施設で行っている各種講座事業等については、新年度に向けた共通のテーマ・キーワードとして「ふるさと石狩」を掲げ、よりテーマ性を持たせた統一感のある事業展開を図っていきたいと考えています。

おわりに、委員の皆さんにおかれましては、2年間の任期を終えられるということで、これまでの間、本会議のほかに任意による意見交換会等も開催していただき、本市の社会教育、まちづくり、人づくりという視点で多くのご議論をいただきましたことに深く感謝を申し上げます。また「市民カレッジ」の開設にあたっては、この会議の中から発案された「新しい市民の学びの場」として、市民協働はもちろん、市民が運営していくという点において全国に誇れる制度ではないかと感じており、委員の皆さん、運営に関わっている市民の皆さんのご努力が結実したことについて本当に嬉しく思っております。ありがとうございました。

2 徳田委員長あいさつ

今日は本年度3回目、そして社会教育委員としての任期2年の中で最後の会議です。この2年間の委員としての任務、活動等につきまして心から感謝申し上げます。

振り返って思い出すことは、一昨年9月に厚田区（望来コミセン・みなくる）で開催した石狩管内社会教育委員等研修会です。特に開催準備にあたっては、実行委員として地元厚田区の袴田委員、柴田委員やその他の社会教育委員にご尽力をいただきました。当日は北大の町井教授から基調講演として「地域住民と行政との協働によるまちづくり・生涯学習～その現状と課題～」と題し、まちづくりに活かす学びとはどういうものなのか、あるいは協働、地域づくり等についてお話いただき、学校・家庭・地域を結ぶために社会教育委員として活動することについて理解を深めることができました。

また、昨年7月の会議では、村中委員から「地域のネットワークづくり」として、えりすテレビの活動紹介をしていただきました。今日は続編として3名の委員から、それぞれ所属されている団体の活動、実践事例の紹介と、団体が抱えている課題や問題点等についてもお話を伺い、意見交換をする予定です。委員としての任期は終わりますが、社会教育委員としてではなくても、地域づくり、まちづくりの活動に今後も関わられることと思いますので、これからの石狩市の社会教育に一個人として、または所属する団体として、ますます活性化を図っていただければと思います。この2年間、ご協力をいただきありがとうございました。

3 報告（平成21年度社会教育事業実施報告）

・板谷主査より資料「平成21年度事業実施報告（p1～14）」を説明

【質疑応答】

徳田委員長：資料p13の「ノーバディーズ・パーフェクト（NP）養成講座」の内容について、詳しく教えていただけないでしょうか。

清水課長：「完璧な親はいない」という意味から、子育てに不安を抱いている親世代を支援しようという趣旨で開催する事業です。今の日本の家庭環境を考えた時に、異世代で同居していた家庭、あるいは地域で子ども達を見守り育てていた時代から核家族化が進んでしまった状況において、子育て相談ができる環境づくりをコンセプトに、主にお母さん方を対象に開催するものです。またこの事業は藤原委員が事務局メンバーの一人として関わっておられますので、より詳しくお話していただきたいと思います。

藤原委員：この事業は元々カナダで生まれたプログラムで、それぞれが持っているスキルをお互いに出し合って確認しあうことを目的としており、特に何かを教えとか、指導するというプログラムではありません。先に講座のファシリテーター（リードする人）を養成する講座を全 10 回 1 コースとしてやりました。その後、一般の方を対象に全 6 回を 1 コースとした講座をやりました。来年度も 2 コース開催する予定です。従来のような保健士や看護師などの専門職の方が講師として教えるというのではなく、お互いのスキルや知識経験など、自分のやり方を出し合う中間的なプログラムです。そして、お互いに気づきあいながら、ゆるく、楽しく、正直に話し合いながらできるような雰囲気をつくるのがファシリテーターの役割としています。

徳田委員長：今年度から始めた事業なのですね。

藤原委員：はい。特徴としては、やはり先にファシリテーターを養成して、その後でファシリテーターのリードによって、今年度については 10～12 名程度でセッション（話し合い）を続けてきたという点です。

徳田委員長：ありがとうございました。他に質問等ございませんか。

相馬委員：スポーツ健康課のウォーキングプロジェクト会議は、体育指導委員が出席参加しているということでしょうか？

袴田委員：はい。体育指導委員として自分も出席していましたので。

徳田委員長：ありがとうございました。他はいかがでしょうか。

袴田委員：町のはらっぱ事業は、来年度「地域プレリーダー事業」としてリニューアルするということですが、町のはらっぱ事業は緑苑台と花川南の 2 箇所で、回数、参加者数も多かったと思うのですが、無くすことにした要因は何でしょうか。

三国部長：私の方から、前任がこども室長だったことも含めて説明させていただきます。元々の趣旨は、子ども達の外遊びへの誘い、友達同士で工夫して遊ぶこと、喧嘩することなどを含め、子どもや自然とのふれあいを再現できないかということで始めたものです。これまで、緑苑台地区で手作りの遊具を使ったイベントや、花川南彩林公園で「セツルメント」という北大、藤女子大の学生サークルの協力を得て、大学生のお兄さん、お姉さん方と子ども達が一緒にいろいろなプログラムで遊ぶ取組をしてきました。ただ、特に緑苑台については手作りの遊具のため、そろそろ撤去する時期に来ていることもあり、また、これまでの取組から将来的な子どもの遊び場として、大きく 1 箇所に作るべきか、分散型を考えるべきか、というポイントを押える必要が出てきました。そのようなことも含めて、次年度に市民図書館横に建てる児童館にも外遊びができるスペースを確保し、それ以外においては子ども達にとって近場である既存の公園を活用したなかで、学生サークルとの事業展開を行なっていくと聞いております（袴田委員：了承）

清水課長：私から資料 p3 に掲載の情操教育事業について補則説明させていただきます。スタートプログラム「おしゃべランド」と、セカンドプログラム“The Music”どちらも全国的にも珍しい本市独自の事業です。

「おしゃべランド」は、アートウォームを会場に市内の全小学 1 年生を参加対象にしています。特徴は「音楽朗読劇」として、絵本の読み聞かせとピアノ演奏、特殊照明による演出効果など、臨場感にあふれ、子ども達にとっても大変

印象に残る朗読プログラムになっている点です。また、図書館のブックスタート事業を発展させた、小学校での読書活動につながっていくような要素も含まれていると考えており、「おおきなかぶ」のお話では、物語のストーリーに合わせて、掛け声とともに皆でかぶを抜くなど、子ども参加型のプログラムになっています。この事業は、子ども達への効果という点で、即効性があるかどうかの検証はなかなか難しいのですが、幼児から小学生に学年が上がるという、生活環境が大きく変わるタイミングの時期にこの事業をやることで、子ども達の印象、思い出に残り、将来的に絵本や読書への関心が高まることにつながっていくという効果がもたらされることを期待して実施しています。

“The Music”は、中学生があまり聴いていないジャズ音楽を体験する機会として、先入観を持たせずに会場に来てもらうこと、生演奏の迫力や演奏者同士の掛け合い、即興などを間近で観て感じてもらうことを第一としました。参加した子ども達全員から感想文をいただき、「心から感動した」「自分もやってみたい」などの声もあるなど、主催者側としても子ども達の心に相当なインパクトを与えることができたと感じています。今は試行事業として中学校1校の実施という状況ですが、この事業もぜひ拡大させたいと考えているところです。

徳田委員長：石狩市独自の色々な事業が展開されていることがわかり、非常に良いことだと思いつながりながら説明を聞いておりました。ありがとうございました。

私からもう一点、資料 p7 一番下の石狩冬まつり「厚田ウィンターレクフェスタ」ですが、今年は参加者がとても多かったようですね。

袴田委員：私も厚田区の体育指導委員の立場で協力しました。毎年、旧厚田スキー場で開催していた「厚田ウィンターレクフェスタ」と、数年前まで石狩青年会議所（J C）中心に開催していた「石狩冬まつり」を復活させて、今年度厚田で共同開催しようということになりました。地元の区民と地元以外の方々との交流ができてとても良かったと思っています。

4 議案（平成 22 年度主要な社会教育事業の概要）

- ・板谷主査より資料「平成 22 年度主要な社会教育事業の概要」「平成 22 年度社会教育予算案」を説明。

- ・工藤主査より「文化財情報発信事業」について補足説明。

厚田資料室のリニューアルを予定しており、その予算を厚田支所の地域振興課で別途計上しています。これまでの経過としては、昨年夏に市民図書館で開催した「厚田ゆかりの四人展（子母澤寛、戸田城聖、吉葉山、佐藤松太郎の厚田出身の著名人をテーマにしたパネル展）」を機に、厚田資料室リニューアル協議会が中心となって進めています。また、例年5月上旬に開館していることもあり、その時期に間に合うよう現在展示物の整理作業等を行なっているところです。

【質疑応答】

若林委員：社会教育関係の予算全体として、前年度との比較増減はどのようになっていますか。

清水課長：H22 年度の新規事業として、学び交流センターの整備事業と管理運営に係る予算が大きいこともあり、トータルでは増額になっております。

相馬委員：スポーツ健康課所管のウォーキング事業についてですが、浜益区でも独自でウ

ウォーキングをしている区民が多いですが、残念ながらまだ、普及させるための組織ができていません。ウォーキング後に血圧測定をしたり、医療費の負担減につながる効果なども含めて、市民の健康、体力増進を図っていくために、保健福祉部や社会福祉協議会などが密に連携をとって、市内各地域でウォーキングの普及を進めていただきたいと思います。

三国部長：組織化に向けた動き等について、要望があったことを健康推進室に伝えます。

徳田委員長：私から文化財課の関連で一点お聞きします。先程、厚田資料館のリニューアルについてお話がありましたが、浜益の郷土資料館の整備状況はいかがでしょう。2年程前に見学した際は展示物が大変多く、もう少し整理できればという印象を受けたのですが。

工藤主査：その後徐々に整理作業を進めており、現在は文書関係の資料を中心に整備しています。また、国の緊急雇用対策交付金を活用する等、整備作業をする人を雇用した中で、その他の展示収納物の整理保管、建物のメンテナンス等をしていきたいと考えております。

村中委員：浜益の資料館には、鯨漁で栄えた頃や庄内藩が入植した時代の資料など、本当に貴重な歴史的資料が沢山ありますが、建物が老朽化していることもあって整備できていない状況が続いていました。市の財政状況が上向いた際には、例えば旧浜益中央小学校跡地に資料館を建てるなど、歴史的資料をきちんと分類して公開できるよう整備してほしいというのが願いです。

三国部長：私から補足して説明させていただきます。今回の新教育プラン策定の中で、文化財資料についてもかなり議論になりました。市として頭を悩ましているのが、今のお話にもありましたように厚田・浜益にそれぞれ旧村からの資料館が現存していて、施設の老朽化、資料の整理等について課題となっていることです。少なくとも新教育プランの期間中に、今後の資料館のあり方、方向性を見出すということにしておりますが、まずは歴史的資料を良好な状態で保管する上で、各種資料の目録作りを進めることにしておりますので、ご理解をお願いいたします。

村中委員：もう一点、スポーツ健康課に対する要望ですが、子ども達のスポーツ離れが言われている中で、剣道や少林寺拳法などの種目は多くの子ども達が参加して、全道大会で優秀な成績を収めるなど、とても頑張っているスポーツ種目と、そうでない種目があるような気がしています。例えばソフトボールは、夏休みにスポーツ広場で親子参加の体験教室を開いていて、見学した時にとってもいいなあと思いました。そういう意味で、いろいろな種目がある中で、子ども達にすぐに特定のスポーツ少年団に入るような働きかけはしないで、まずは気軽に、体験できるようなイベントを夏休み、冬休みなどに企画してほしいと思います。

5 その他

(1)「教育プラン」進捗状況・・・口頭説明

東参事：11月下旬に素案ができ、12月にパブリックコメントを実施したところ、全部で33件のご意見をいただきました。その後、事務局でそれぞれ採用、一部採用等の検討を行い、最終案の中に盛り込むという作業をしており、過日開催したこども総合支援会議(2/8)、教育委員会会議(2/19)を経て、3月末の最終

決定に向けた事務作業を行なっております。

(質疑なし、全体了承)

(2)「市民活動実践事例発表」

徳田委員長：社会教育は学校、家庭、地域で幅広く展開される教育ですが、この会議の中で特に地域で活動されている委員がいらっしゃいますので、今日は3名の委員から日頃の活動紹介と課題等も含めてお話いただきたいと思います。

藤原委員：「NPO法人こどもコムステーション・いしかり」の活動報告

※別添「パンフレット」「コムステウィンターキャンプ in 南富良野町活動報告」を参照。

元々の活動母体は「石狩おやこ劇場」で任意団体として21年間活動してきた後、2002年にNPO法人として設立しました。小学生から高校生までを対象にした事業と、主に0歳から3歳の子どもと親(親子)を対象にした事業を行い、「子どもの社会参加をすすめる」「全体のつながりが持てる」の2点を意識した活動をしています。課題は、なるべく参加費を取らないよう、廉価な事業を企画するように心がけて、国や民間団体等の助成金を活用しており、今のところは順調ですが、各種の助成制度が無くなった際のことを考えたときに、どんな運営になっていくのかという点にあります。このほか、特にお配りしている南富良野町のキャンプ事業について紹介しますと、2泊3日の日程で行いましたが、今回はバンクーバー五輪カーリング代表の目黒さんのお父様が運営しているNPOとの交流もあり、実際のプログラムとしてカーリングの体験を行うなど、年々充実した内容になっていると思っています。

(質疑なし、全体了承)

中川委員：「財団法人石狩市体育協会」の活動報告

私は、協会の加盟機関団体の一つである「石狩バウンドテニス協会」に所属していますが、ここでは協会の組織委員会として、私が別に所属している「普及委員会」の中で今、議論検討していることについて報告します。テーマは「市民体育大会の活性化を図る方策について」として、少子高齢化や社会環境の変化等によって、種目によって参加者数の減少傾向にある状況から、種目団体別の実態調査を行い、結果分析をしたところ、活性化を図るための課題がわかり、その対応策がまとまりました。種目・団体を問わずに共通して言えることは、「新しい風」を入れることで、年1回は「初心者教室」を実施するなどの取組をし、そのことが市民皆スポーツの実現につながっていくということでした。以上です。

徳田委員長：先ほど村中委員から子ども達へのスポーツ体験の機会を拡げることへのご意見をいただいたところですが、初心者への体験機会という観点では共通して言えることですね。

(以後質疑なし、全体了承)

山根委員：「石狩市文化協会」の活動状況報告

※別添「協会広報誌かがやき」「2009年度事業計画・構成団体名簿」を参照。

昭和49年に石狩町文化協会として19団体、275名で設立、現在65団体、約1,000名が加盟しています。協会独自の鑑賞事業として、ここ数年は津軽三味線や落語公演などの大規模なイベントも行なっています。また「市民文化祭」

や「俳句のまち・いしかり」事業は、市・市教委との共催事業として参加しており、特に俳句事業は今年度2回目の参加で、作品集の製作や表彰式、句碑除幕式の企画運営等を行いました。現在、団体としての更なる発展と組織強化、芸術文化の普及を図るために、NPO法人化に向けた準備を進めています。私は協会加盟団体の女性合唱団アルバコーレに所属していますが、やはり高齢化が一番の課題で、若い世代の人に参加してもらえるような工夫をどうすればいいか悩んでいるところです。以上です。

徳田委員長：ただ今、3名の委員から所属されている団体の活動状況等について紹介いただきました。ありがとうございました。同じような悩み、課題があることがわかりましたので、今後も社会教育委員の会議の中で、情報交換や改善された事例などについて紹介できればと考えております。全体を通して他にありませんか。

相馬委員：市主催の事業も、団体等が主催する事業も、市民のボランティアが準備や当日の運営に参加しているのが多くなってきており、とても良いことだと思っています。その一方で、ボランティアとして参加協力した時にケガや事故が起きた場合の補償問題、適用範囲等がはっきりしていない部分があって、そのことがしっかりされていれば、もっと多くのボランティアの協力を得ることができるのではないかと思います。

東参事：市では、市や市教委主催の事業で起きた事故等に対して、賠償金額の全部または一部を補償される保険に加入しています。今後、市との協働事業というかたちのイベントが多くなってきた時、万が一の場合にそれぞれのケースで賠償保険が適用される、されないということが起きてくるので、まずは保険の加入についてどうするかを事前に確認することがますます大事になってくると思います。

徳田委員長：この件は、この場ですぐ具体的な結論を出せるものではありませんが、いろいろな社会教育活動を行なっていく上で大切な視点であり、今後も十分留意して取り扱っていくべきものと考えています。他にご意見等ありませんか。

三国部長：私から最後に一言お礼を申し上げさせていただきたいと思います。特にこの2年間は、市の財政再建に向けた取組である施設の統廃合の案件や、新教育プラン策定などで、非常に凝縮された期間ではなかったかと存じます。委員の皆様方の熱心なご審議をいただきましたことを、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

徳田委員長：以上で、平成21年度第3回石狩市社会教育委員の会議を終了いたします。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成22年3月21日

石狩市社会教育委員の会議委員長 徳田昌生